

《履修上の留意事項》遠隔授業のみ実施

《担当者名》高橋尚明

【概要】

解剖学は、理学療法学や作業療法学を学ぶために必要な臨床的知識ならびに臨床的考察力を支える専門基礎科目のひとつとして位置づけられ、人体を形作る骨格と筋、それらを支配する神経について詳細に修得する。特に、骨格系、筋系、神経系、に関しては、系統別機能解剖学に関する項目に加え、関連科目である運動学や生理学とともにリハビリテーションに関わる臨床的視点も加えて深く掘り下げ、臨床症状を解剖学的に考察するために必要な知識と考え方を学ぶ。

【学習目標】

リハビリテーションに関わる専門科目を十分に理解するために、関連の深いリハビリテーション基盤科目とともに人体の形態と構造について理解し、それらの機能を関連付けて理解し説明することができる。また、医療従事者として必要な臨床考察力を得るために必要な解剖学的基礎知識について、身体を構成する器官・組織・細胞別に理解し説明することができる。

1. 脳・脊髄からの神経の分布を理解し、説明する事ができる。
2. 中枢神経と末梢神経、自律神経について説明できる。
3. 身体を構成する骨の構造と関節構造、骨格について説明できる。
4. 骨の形状による分類を行い、その具体例を挙げ説明することができる。
5. 骨の不動性連結と可動性連結（関節）について具体例を挙げ説明することができる。
6. 筋の一般構造と人体における役割について説明することができる。
7. 筋の形状による分類を行い、その具体例を挙げ説明することができる。
8. 筋とその付属器の種類と機能について説明することができる。
9. 骨格を構成する骨・関節・靱帯について理解し、説明することができる。
10. 身体の運動を構成する筋の支配神経および付着部と、その作用について理解し説明することができる。
11. 身体に分布する動脈と静脈の走行について理解し説明することができる。

【学習内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学習課題 | 担当者 |
|---|---|---|------|
| 1 | 序論 <身体の区分> <身体の構成> <発生> | 解剖学の学問大系について理解する。 身体の区分、器官、組織、細胞について理解する。 発生について理解する。 細胞の組成について理解する。 | 高橋尚明 |
| 2 | 骨格系 1. 骨の構造と種類 2. 関節・靱帯 3. 骨格 | 骨の構造と種類について理解する。 関節の構造と種類について理解する。 人体を構成する骨格について理解する。 | 高橋尚明 |
| 3 | 筋系 1. 横紋筋 2. 平滑筋 | 筋の構造と種類について説明できる。 | 高橋尚明 |
| 4 | 神経系 1. 中枢神経 2. 末梢神経 3. 腕神経叢と腰神経叢、仙骨神経叢 4. 自律神経 | 脳と脊髄の構造について理解する。 神経の構造について説明できる。 中枢神経と末梢神経、自律神経について理解する。 腕神経叢、腰神経叢、仙骨神経叢の構造と各神経叢から分岐する神経 | 高橋尚明 |
| 5 | 運動器各論（頭頸部、脊柱と胸郭） 1. 脊柱を構成する骨格 2. 胸郭を構成する骨格 3. 頭蓋骨の構造 | 頸椎、胸椎、腰椎の椎体構造 脊柱を構成する骨格構造 胸郭を構成する骨格構造 顔面頭蓋を構成する骨について理解する。 脳頭蓋を構成する骨について理解する。 | 高橋尚明 |
| 6 | 運動器各論（体幹） 1. 体幹の運動に関わる筋 2. 頭部と顔面の筋 | 旁脊柱筋と固有背筋の種類と作用 頭部に付着する筋の起始、停止、支配神経、作用について理解する。 頸部（喉頭周囲）に付着する筋の起始、停止、支配神経、作用について理解する。 | 高橋尚明 |

| 回 | テーマ | 授業内容および学習課題 | 担当者 |
|----|--|--|------|
| 7 | 運動器各論（上肢帯） 1. 上肢帯～肩関節を構成する骨格 2. 上肢帯の運動に関わる筋 | 肩甲骨と鎖骨、上腕骨 胸鎖関節と肩鎖関節、肩甲上腕関節 体幹と上肢帯に付着し上肢帯の運動に関わる筋 | 高橋尚明 |
| 8 | 運動器各論（上肢帯～肘関節） 1. 肩関節の運動に関わる筋 2. 胸郭～上腕への神経と脈管 | 体幹から上肢に付着し、上肢の運動に関わる筋 肩甲骨から上肢に付着し、上肢の運動に関わる筋 鎖骨下から上腕にいたる神経と脈管 | 高橋尚明 |
| 9 | 運動器各論（肘関節～手関節） 1. 肘関節～手を構成する骨格 2. 肘関節と手関節の運動に関わる筋 3. 前腕部～手の神経と脈管 | 橈骨と尺骨、手骨を構成する骨格 肘関節と手関節の構造、肘関節と手関節の運動に関わる筋 肘関節から手関節にいたる神経と脈管 | 高橋尚明 |
| 10 | 運動器各論（手） 1. 手内在筋と作用 2. 前腕部～手の神経と脈管 | 手を構成する骨と関節構造 手内在筋とその働き 手内部の神経と脈管 | 高橋尚明 |
| 11 | 運動器各論（下肢帯と股関節） 1. 骨盤を構成する骨格 2. 股関節を構成する骨格と関節構造 3. 股関節周囲の神経と脈管 | 寛骨と仙骨、尾骨 骨盤および股関節の靱帯 鼠径から大腿部にいたる神経と脈管（腹側） | 高橋尚明 |
| 12 | 運動器各論（股関節～膝関節） 1. 股関節周囲の神経と脈管 2. 股関節の運動に関わる筋 | 殿部から大腿部にいたる神経と脈管（背側） 股関節の運動に関わる筋（単関節筋） | 高橋尚明 |
| 13 | 運動器各論（膝関節） 1. 股関節の運動に関わる筋 2. 膝関節を構成する骨格と関節構造 3. 膝関節の運動に関わる筋 4. 大腿から膝周囲の神経と脈管 | 股関節の運動に関わる筋（多関節筋） 脛骨と腓骨 膝関節の構造 股関節と膝関節の運動に関わる筋 膝関節周囲から下腿部にいたる神経と脈管 | 高橋尚明 |
| 14 | 運動器各論（膝関節～足関節） 1. 足部を構成する骨格 2. 足関節の運動に関わる筋 3. 下腿部から足部の神経と脈管 | 足根骨と足骨を構成する骨格 足関節の構造と関節運動の特徴 足関節の運動に関わる筋 足背と足底の神経と脈管 | 高橋尚明 |
| 15 | 運動器各論（足部） 1. 足部内在筋と作用 | 足部の内在筋とその作用 | 高橋尚明 |

【評価方法】

試験 100%

定期試験は返却しないが、個別での問い合わせに対しフィードバックを行う。

【備考】

教科書：坂井建雄、橋本尚詞著 「ぜんぶわかる人体解剖図」 成美堂出版 2010年
坂井建雄 監訳 「プロメテウス 解剖学 コアアトラス 第2版」 医学書院 2015年

参考書：ネッター 著 「ネッター解剖学図譜」 丸善 2001年
藤田恒太郎 著 「人体解剖学」 南江堂 2003年
山田英智 監訳 「図解 解剖学事典 第3版」 医学書院 2013年
森優 他 著 「分担解剖学 解剖学続巻 組織学・発生学 第10版」 金原出版 1991年
森於菟 著 「分担解剖学 解剖学1 総説・骨学・靱帯学・筋学 第11版」 金原出版 1982年
平沢興 原著 「分担解剖学 解剖学2 脈管学・神経系 第11版」 金原出版 1982年
小川鼎三 原著 「分担解剖学 解剖学3 感覚器学・内臓学 第11版」 金原出版 1982年
野村巖 著 「標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第4版」 医学書院 2015年
ネッター 著 「ネッター解剖学アトラス」 南江堂 2011年

その他：講義時に配布する資料

【学習の準備】

- 1) 教科書および資料について、関連する項目を読み十分な予習を行う（約20分）。
- 2) 指定した教科書、または事前に配布する資料については事前に目を通し、配布資料がサブノート形式の場合は、事前に必要

事項の記載などの予習を行うこと（約40分）。

3）教科書および講義資料、講義内で解説した内容をもとに十分な復習を行うこと（約40分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

高橋尚明（専門理学療法士，死体解剖資格）

【実務経験を活かした教育内容】

理学療法士および解剖学研究の実務経験を活かし、基礎医学の重要性ならびに基礎医学と臨床医学のつながりに関して解説を行う。また、臨床場面における現象やその原因について、解剖学的な観点を含めて考察し理解するための知識を講義する。